

右「佛」聲明ト同シ機會ニ於テ「波蘭」ハ今ヤ再軍備禁止ナル原則カ一般的ニ受諾セラレ右ニ關スル條項カ軍縮條約ニ挿入セラルヘキコト明カトナレルハ洵ニ欣快ナリ再軍備禁止ト同時ニ「波蘭」ハ兵器製造及取引問題ヲ重視スルモノナルカ故ニ「一般委員會」カ速カニ本點ニ關シ討議ヲ開始セムコトヲ望ムト述ヘタリ

第三編 海 軍 問 題

目次

第三編 海軍問題	二三九
第一章 總說	二三九
第一節 「一般委員會」決議ト海軍問題	二三九
第二節 會議第二期開始ト海軍問題	二三九
第一項 「英」外相海軍問題報告者任命	二三〇
第二項 私的交渉經過概要	二三〇
第一目 「英」「米」交渉	二三〇
第二目 「佛」「伊」交渉	二三一
一、「デヴィス」ノ訪佛及訪伊	二三一
二、「佛」案ノ提出	二三一
三、「英」折衷案	二三一
第二章 各論	二三三
第一節 「英」條約案提出前ニ於ケル海軍問題經緯	二三三
第一項 「佛」國案ト海軍事項	二三三
第一目 「佛」國案ノ内容	二三三

第二目 「佛」國案ノ討議	二三四
第二項 議事進行ニ關スル英外相聲明中ニ表ハレタル海軍事項	二三五
第三項 議事「プログラム」ニ關スル「英」提案ト海軍事項	二三五
第一目 「英」「プログラム」案中ノ海軍事項	二三五
第二目 「英」「プログラム」案中ノ海軍事項ニ關スル討議	二三六
第四項 帝國提案	二三六
第一目 帝國提案ノ內示	二三六
第二目 帝國提案ニ對スル四國専門家意見	二三七
第三目 帝國提案ノ提出	二三八
第四目 帝國提案全文	二三八
第五目 帝國提案ノ公表	二四二
第六目 帝國提案ニ對スル外紙論調	二四二
第一、「英」	二四二
一、「タイムス」	二四二
二、「ヘラルド」	二四三
三、「テレグラフ」	二四三
第二、「米」	二四四
一、「バルティモア、サン」	二四四
二、「華府ポスト」	二四四

第三、「伊」	二四五
第四、「佛」	二四五
第五、「獨」	二四五
第二節 「英」條約案提出後ニ於ケル海軍問題經緯	二四六
第一項 「英」條約案海軍條項ノ概要	二四六
第二項 「英」條約案ニ對スル我方根本態度	二四六
第三項 「英」條約案一般討議	二四六
第一目 各國ノ態度	二四七
(一) 「佛」ノ態度	二四七
(二) 「伊」ノ態度	二四八
(三) 「蘇」ノ態度	二四八
(四) 「西」ノ態度	二四九
(五) 「土」ノ態度	二五〇
(六) 「典」ノ態度	二五〇
(七) 「蘭」ノ態度	二五一
(八) 「獨」ノ態度	二五一
(九) 「支」ノ態度	二五一
第二目 我方態度	二五二
第三目 「英」ノ態度	二五三

第四目 「米」ノ態度……………	二五四
第五目 「英」「米」陳述ニ對スル佐藤全權ノ反駁……………	二五五
第四項 「英」條約案ニ對スル各國態度ノ概觀……………	二五六
第五項 各國修正案……………	二五七
第一目 第一群所屬國修正案（我方修正案）……………	二五七
第二目 第二群所屬國見解、聲明及修正案……………	二五七
第一、「佛」ノ見解……………	二五八
第二、「伊」ノ聲明及修正案……………	二五八
第三目 第三群所屬國見解及修正案……………	二五九
第一、「蘇」ノ見解……………	二五九
第二、「獨」修正案……………	二六〇
第三、六國見解……………	二六一
第六項 華府條約署名國以外ノ國ノ海軍兵力量……………	二六二

第三編 海軍問題

第一章 總 說

第一節 「一般委員會」決議ト海軍問題

昭和七年七月二十三日「一般委員會」決議ハ其ノIIIノ4ニ海軍問題ニ關シ

「軍縮會議ハ「フーヴァー」案中ノ海軍提案及海軍々備ニ關スル他ノ提案ニ關シ可能ナルニ於テハ會議々事再開前「一般委員會」ヘ報告提出ノ目的ヲ以テ一般軍縮計畫ノ一部分トシテ實現セラルヘキ新ナル海軍々縮措置ニ關シ協議ヲ行ハムコトヲ華府及倫敦條約署名國ニ勸奨ス

同時ニ會議ハ前記兩條約署名國以外ノ海軍國ニ對シ華府及倫敦條約並本決議中ニ豫見セラレタル軍縮ノ一般的計畫ヲ考慮シ自國ノ受諾シ得ヘキ海軍制限ノ程度ヲ決定スルニ必要ナル措置ヲ採ラムコトヲ勸奨ス

「幹部會」ハ右協議ノ進展ニ關シ報道ヲ受ケ「一般委員會」ニ依ル一般的決定ヲ準備スル目的ヲ以テ之ヲ一般軍縮條約ノ範圍内ニ於テ調整スヘシ」

ト規定シ主トシテ五大海軍國間ノ私的交渉ヲ勸奨シ其ノ進展ヲ俟ツテ「海軍委員會」ノ開催延ヒテハ「一般委員會」ノ決定ニ至ラムコトヲ豫見セリ

第二節 會議第二期開始ト海軍問題

第一項 「英」外相海軍問題報告者任命

昭和七年九月會議第二期開催迄ニハ前記主要海軍國間ノ内交渉ハ何等見ルヘキモノモナク昭和七年九月下旬「幹部會」カ七月二十三日「一般委員會」決議實施方ニ關スル議事方法ヲ議セル際右議事ノ討議基礎トナレル會議一般報告者「ベネシユ」ノ作成セル議事々項表モ海軍事項ヲ未解事項中ノ一二數ヘタルニ基キ議長ハ九月二十六日「英」代表「サイモン」ニ對シ海軍問題報告者トナリ前記内交渉進展ノ程度ヲ「幹部會」ニ通報セムコトヲ從適シ同代表ハ自己ノ任務ヲ同人ノ得ル情報ヲ「幹部會」ニ通報スルニ止ムルノ條件ニ於テ海軍問題報告者タルコトヲ受諾シタリ

第二項 私的交渉經過概略

前項記載ノ如ク「英」代表ハ主要海軍國間ニ私的交渉開始方ニ關スル責任ヲ自ラ負フコトナク單ニ自己ノ有シ得ヘキ海軍事項ニ關スル情報ヲ「幹部會」ニ供給ストノ了解ノ下ニ海軍問題報告者タルコトヲ受諾セルハ「英」國側カ海軍々縮問題ニ深入リセサラムトスル底意ヲ示スモノナルト共ニ^(註)主要海軍國殊ニ「佛」「伊」間ノ協定成立望ミ薄ナルヲ豫見シテノコトナルカ一般豫想セル如ク「英」「米」殊ニ「米」ノ斡旋ニ拘ラス右兩國間ニハ遂ニ合意ヲ見ルニ至ラサリキ

次ニ簡單ニ他ノ四大海軍國間ニ行ハレタル私的會談經過ヲ記載スヘシ

^(註) 昭和七年十一月十七日「英」外相「サイモン」ノナセル會議議事進行方ニ關スル一般的聲明中ニ於テモ右聲明ノ主眼點ハ、獨ニノ軍備平等權問題ヲシモ海軍事項ニ關シテハ實の制限ニ關シテハ若干言及スル所アリシモ量の制限ニ付テハ觸ルル所アラサリキ

第一目 「英」「米」交渉

一、前記ノ如ク「英」側カ海軍問題ニ關シテハ寧ろ消極的態度ヲ示セルニ對シ「米」ハ大統領選舉其ノ他ノ國內事情關係ヨリ相當乘氣ニテ「ノーマン・デーヴィス」ハ昭和七年十月初旬「ヘブバーン」少將其ノ他ヲ帶同海軍問題ニ關スル關係國間會議ノ下準備トシテ先ツ會議第一期ニ提出セラレタル「英」(Conf. D. 133)「米」(Conf. D. 126)兩案ニ關シ一般

的談合ヲナサントシテ壽府ヨリ倫敦ニ向ヒタルカ^(註)右談合ハ^(イ)英米案ノ相違ニ關シ各自自國ノ主張ノ根據理由ヲ充分ニ説明シ^(ロ)右相違ニ付何等歩寄ルコト能ハサルヘキカラ研究スルヲ其ノ目的トシタルモノナリシモ何等見ルヘキ結果ニ到達セス僅少ノ點ニ付英米専門家ヨリ夫々自國政府ヘ「レコンメンダ」シタルニ止リシ模様ナリキ

二、前述ノ如ク當時米國大統領選舉直前タリシ關係モアリ特ニ英國側ハ右交渉ニ關シ深入リヲ避ケタルト且英國側トシテハ「佛」「伊」ノ保有量決定セサル限リ六吋砲巡洋艦及驅逐艦等ニ關シ何等決定の態度ヲ定メ得サリシヲ以テ「英」「米」間ニ於ケル交渉ハ右ノ程度ニテ一先ツ打切り兩國ノ斡旋ニテ佛伊ノ妥協ヲ計ラントセリ

^(註) 「デーヴィス」等ハ十月七日ヨリ約十日間「英」首府ニ滞在シタリ

第二目 「佛」「伊」交渉

一、「デーヴィス」ノ訪「佛」及訪「伊」

「デーヴィス」ハ渡英ニ前後シ巴里ニ於テ佛國側ト意見ノ交換ヲナシ且昭和七年十一月七日ヨリ九日迄羅馬ニ赴キ伊國當路ト會談シタルモ^(註)「デーヴィス」ハ具體案ヲ作成セス大體ノ方針トシテ佛伊均勢ニ觸レス單ニ佛伊間ノ建造及代換計畫ヲ協定ノ基礎トシ妥協ヲ圖ラントシタルモノノ如シ^(イ)伊國側ハ本件ハ從來ノ經緯上佛國側ヨリ開談スヘキモノナリトナシ又佛國側ニアリテハ伊國側ニ開談ノ責アリト主張セル關係上何等ノ進展ヲ見サリキ

二、「佛」案ノ提出

(一)「英」「米」側ハ其ノ後「佛」「伊」ノ説得ニ努メタル結果昭和七年十一月二十二、三日頃遂ニ伊國側ヨリ其ノ立場ヲ佛國側ニ申入レ之ニ對シ佛國側ヨリ一案ノ提出ヲ見ルニ至レリ右ニ對シ英米側ニテ多少ノ修正ヲ加フレハ承諾シ得ルモノト思考シ居リシカ如ク同案ハ大體昭和六年三月一日ノ「佛」「伊」假協定ト大差ナク佛伊兩國側ニテ昭和十一年迄現ニ建造中ノモノヲ除キ造艦ヲナサ、ルコトヲ以テ骨子トナシ居レルモノニシテ主力艦ニ關シテハ右佛伊協定ノ際我方ノ申入レタル點ヲ考慮シ且潛水艦保有量ニ付テハ佛國側ニ於テ幾分低下セリ

(二) 然ルニ右案ニ對シ伊國側ニ於テ難色ヲ示シ到底承諾セサルコト明カトナリタルヲ以テ英國側ハ昭和七年十一月二十五日一ノ折衷案ヲ提出シ佛國側ハ同月三十日之ニ回答セリ

三、「英」折衷案

前記「佛」回答ハ「佛」提案ト大同小異ニシテ昭和七年ノ建造計畫ヲ基礎トシ夫以外ニ造艦セサルコトヲ主眼トシ居ルモノニシテ之亦到底伊國側ニ於テ承諾シ得サルコト明カトナレルヲ以テ「佛」「伊」交渉ハ又々停頓シタリ「デーヴィス」ハ十二月一、二日頃更ニ巴里ニ赴キ米佛専門家間ニ會談セシメタルモ談合進捗セス其ノ後十二月十一日五國協定ノ爲「マクドナルド」ノ來壽ヲ見タルモ本問題ハ依然左シテ進展ヲ見ス其ノ儘昭和八年三月下旬ヨリ開始セラレタル「英」條約案一般討議迄會議内外ニ於テ何等見ルヘキ進展ヲ見スシテ終レリ

第二章 各 論

第一節 「英」條約案提出前ニ於ケル海軍問題經緯

「英」側カ「佛」「伊」ノ倫敦條約加入ヲ計リ「米」側ト共ニ右兩國側ノ説得ニ努メタルハ前出ノ通りナルモ「日」「英」「米」三國ニ關スル限リ昭和十年海軍會議迄現狀繼續ヲ欲スルモノ、如ク此ノ點後記「英」外相聲明、右ニ基ケル議事「ブログラム」ニ關スル「英」提案及「英」條約案ノ内容ヲ見ルモ明カナリ昭和八年三月十六日前記英條約案カ提出セララル迄海軍事項ニ關シテハ左ノ聲明及諸案ニ付説述スルヲ要ス

第一項 「佛」國案ト海軍事項

第一目 「佛」國案ノ内容

佛國案ハ昭和七年十一月十四日附(Conf. D. 146)ヲ以テ會議ニ提出セラレタルカ海軍問題ハ海外領域兵力ト關聯シ其ノ第四章ニ左ノ如ク記載セラル

「海軍兵力ハ陸軍兵力トハ異ナリ直接歐洲大陸制度ニ依リ影響ヲ受クルコトナシ

(海軍兵力ノ相對性)

右兵力ハ主トシテ一方海外領域ノ保護、本國、植民地沿岸及海上交通ノ防衛ニ又他方歐洲關係協定ニ關係ナキ國ノ海軍又ハ陸軍ノ兵力ニ關聯ス

然レトモ右ハ歐洲大陸ニ採用セラルヘキ陸軍縮少ト海軍及海外軍備制限トノ相關關係ヲ不必要ナラシムルモノニ非ス(海軍兵力ノ取扱方)

海軍兵力ニ付テハ其ノ解決方法ハ安全保障ニ關スルト軍備制限ニ關スルトヲ問ハス一切ノ海軍國ニ均シク適用セララル

一般組織ニ入ルモノトス

然レトモ華府會議ハ政治的性質ヲ有スル地方的協定カ海軍戦闘部隊ノ縮減ヲ容易ナラシムルニ利アルコトヲ示シタリ
從テ被侵略國援助共同動作ノ爲ニスル各國艦隊ノ協力組織ニ關スル協定ニ依リ更ニ一層大ナル噸數ノ減少ヲ實現シ得ヘ
ク右ハ關係海軍國間ニ地中海協定ノ締結セララル場合ニ於テ特ニ然リ

(質的制限)

陸軍軍備ト同シク海軍軍備ニ於テモ「フリーヴァー」案ノ趣旨ニ依リ縮減ノ重點ハ特定艦型現有性能ノ質的軍縮ニ依リ最
モ攻撃的ナリト認メラレタル特定艦種ニ加ヘラルヘシ

(量的制限)

量的縮減ニ關シテハ現狀ノ相對關係ヲ其ノ儘トシテ噸數ノ實際的、積極的縮減ヲナスコト望マシ

(小海軍國ニ對スル取扱)

總噸數十萬噸ヲ超エサルモノニ對シテハ特別方式ヲ用フルコトトシ其ノモノニ對シテ協定セラルヘキ一律ノ縮減率
ハ昭和六年ノ國際聯盟ニ對スル軍備現狀通報ニ示サレタル總噸數ヲ基礎トシテ之ヲ一般ニ適用スヘキモノトス

(共同動作ノ爲ニスル特殊訓練部隊)

軍備の見地ヨリスレハ海軍兵力ノ場合ニ於テハ一般兵力ト「スペシアライズ」セラレタル兵力トヲ區別スルノ要ナキモ
被侵略國援助ノ爲ニスル陸上ニ於ケル行動ヲ海上ヨリ補足スル爲海軍力ヲ有スル各締約國ハ右援助ノ爲國際聯盟ノ要求
アリタル場合ニ緊急援助ヲナスヘキモノトス

右ノ援助兵力ハ條約ニ依リ豫メ規定セラレタル一定割合ノ各艦種ヲ含ムモノトス

第二目 「佛」國案ノ討議

「佛」國案大綱ハ昭和七年十二月四日「佛」代表「ボンクール」ニヨリ「幹部會」ニ於テ陳述セラレ次テ「一般委員會」ハ

昭和八年二月二日ヨリ同八日迄佛案ノ一般討議ヲ行ヒタル處「佛」案海軍事項關係部分其ノモノカ極メテ抽象的ナルト共
ニ昭和八年二月二日「一般委員會」席上ニ於テ「佛」代表「マシグリ」自ラ述ヘタルカ如ク「佛」案ノ主要部分ハ歐洲大
陸ニノミ適用セラル、ヲ目的トスルモノナリシカ故ニ海軍事項ニ關シテハ何等見ルヘキ論議ヲ見サリキ

第二項 議事進行ニ關スル「英」外相聲明中ニ表ハレタル海軍事項

「獨」ノ復歸ハ昭和七年十二月十一日ノ五國協定ニ依リ實現ノ緒ニ著キ同十二月十四日「一般委員會」ヨリ再ヒ「獨」代表
ノ出席ヲ見タルカ右ヨリ先十一月十七日「英」外相ハ會議停頓ノ最大理由ハ「獨」ニ與フヘキ軍備平等權問題ニアリトシ
同問題ト關聯シ議事進行ニ關スル試案ヲ示セル處海軍事項ニ關シテハ「英」政府ハ備砲口徑、主力艦單艦噸數ノ引下ケ及
各國保有量低下ノ爲主要國間ニ私的交渉ヲ行ヒツ、アル處主力艦ノ最低限度ヲ一萬噸ト獨斷的ニ定ムルコトハ一般ノ受諾
ヲ得難キヲ察シ之ヲ七千噸六吋ニ低下セムトス右數字ハ大體ニ於テ現ニ「獨」ニ與ヘ居ラル、制限ニ該當スルモノナリ又
「英」ハ「獨」ノ軍備平等權實現ノ一端トシテ又世界平和及軍縮ノ爲海水艦ノ全廢ヲ主張スルモノナリト述ヘタリ

第三項 議事「プログラム」ニ關スル「英」提案ト海軍事項

前記昭和七年十一月十七日「英」外相聲明ト關聯シ「英」ハ昭和八年一月末議事「プログラム」ニ關スル提案 (Conf. D.
154) ヲナシ「幹部會」ハ同年二月九日及十日兩日同案ノ討議ヲ行ヒタリ

第一目 「英」「プログラム」案中ノ海軍事項

前記英案ハ其ノIIノB(4)ニ海軍事項ニ關シ左ノ如ク記載セリ

「海軍器材

「幹部會」ハ左ノ軍艦最大噸數及備砲最大口徑ヲ定ム

(イ) 主力艦

(ロ) 航空母艦(航空母艦ヲ保存又ハ代換シ得ル場合)

(ハ) 巡洋艦
(ニ) 驅逐艦
(ホ) 潜水艦(潜水艦ヲ保存又ハ代換シ得ル場合)

第二目 「英」「プログラム」案中ノ海軍事項ニ關スル討議

一、提案國「英」ハ前記第一章第二節第一項記載ノ通海軍問題報告者タルカ故ニ本案ノ説明ヲ行フニ際シ主要海軍國間ノ私的會談ハ未タ右ニ關シ報告ヲ作成スル程度迄進捗シ居ラサルモ今後トモ其ノ進展ノ爲努力スヘキ旨ヲ述ヘタル處「海軍委員會」議長(蘭)ハ右ノ如クンハ當分同委員會ヲ開催スルコト不可能ナルヘシト云ヒタリ

二、「佛」ハ「英」カ質的制限ノミヲ掲ケ量の制限ニ言及セサルハ不可ナリトシ「西」ハ右「佛」ト同様ノ非難ヲ「英」案ニ對シ加フルト共ニ小海軍國ノ海軍兵力制限ニ先チ大海軍國ハ率先縮少ノ實ヲ示スヘシトセリ

三、我方ハ會議ニ提出セラレタル一切ノ提案ニ衡平平等ノ待遇ヲ與フヘキ必要アル旨ヲ述ヘ「英」案ハ「海軍」問題ニ關シ質的軍縮ノミニ言及シ居ル處海軍々備ニ關シテモ陸、空軍備ニ關スルト同様の軍縮ヲ考慮スヘキモノナリ日本ハ右ニ關シ具體案ヲ提出シ居ル處右案カ慎重審議セラルヘキコトヲ信シ居レリト述ヘタリ

第四項 帝國提案

海軍事項ニ關スル前記經過ニ鑑ミ且將來ニ於ケル我方立場ヲ有利ナラシムルカ爲我方獨自ノ案ヲ作成シ會議ニ提出シタリ (Conf. D. 150)

第一目 帝國提案ノ内示

一、我方ハ帝國提案ノ正式提出ニ先チ昭和七年十二月五日松平、永野兩全權ヨリ「英」「米」ニ又佐藤、永野兩全權ヨリ「佛」「伊」ニ帝國提案及質的制限ニ關スル具體案ヲ内報シ説明ヲ加ヘ帝國提案ハ量の具體案ヲ合セ一體ヲ爲スモノナルカ右ハ相當込入り居ルニ付我方專門家ヲシテ説明セシムヘキ旨ヲ申添ヘタリ

二、翌六日我方海軍隨員ハ四國專門家ニ對シ夫々量の具體案ヲモ示シ我具體案ノ説明ヲナセリ

(註) 右案ニハ當時佛伊間ノ機微ナル關係及十一月十四日ノ佛國案 (Conf. D. 149) ナ考慮シ我方原案中佛伊保有量ノ部分ヲ修正セルモノナリ

第二目 帝國提案ニ對スル四國專門家意見

右案ニ對シ四國專門家ニ於テ個人的意見トシテ述ヘタル點中重要ナルモノ左ノ如シ

一、英 國 側

潜水艦ヲ乙巡以下ニ組入レ且條約量以上ニ増加セルニ不同意ナルコト、航空母艦ハ陸上航空兵力ノ制限ニ關聯スヘキモノナル旨ヲ述ヘタリ

二、佛 國 側

「佛」「伊」均勢主義ヲ認ムルコト及華府條約量ヲ以テ佛國海軍ノ將來ヲ拘束スルコトハ絶對ニ同意シ得ス一般協定ノミニテハ「佛」「伊」均勢トナル虞アルヲ以テ一般特別兩協定ハ必ス同時ニ效力ヲ發生セシムルコト肝要ナリ「英」「米」ノ兵力量ニ縮減ヲ加ヘタルハ可ナリト述ヘタリ

三、伊 國 側

「佛」「伊」均勢ヲ高調シ質的縮減ヲ過大ナリトシ主力艦ハ十四吋ニ對シ二萬五千噸ハ過少ナルヘク甲巡ハ一萬噸乙巡ハ七千五百噸トスルヲ要スト述ヘタリ

四、米 國 側

主力艦ヲ攻撃的潜水艦ヲ防禦のトスルニハ不同意ナリ主力艦二萬五千噸十四吋ハ過少ナリ十二吋ニテモ二萬五千噸ヲ要ス日本案ハ現有艦船ヲ處分スルニ非スシテ將來ノ問題ナル處現在艦ト代艦トノ威力ニ差アル爲各國ノ勢力決定ヲ頗ル複雑ナラシム甲巡ノ如キハ代艦建造力十數年後ノ問題トナル故今日之ヲ問題トセサル方可ナラン航空母艦ハ爆撃機廢止ト陸上航空兵力トニ關連シ研究ノ餘地アランモ巡洋艦ノ着甲板裝備禁止ハ技術ノ進歩及救命等ノ問題ニ鑑ミ不同意ナリ大

海軍國力大ナル犧牲ヲ拂フノ主義ニハ不賛成ナリト述ヘタリ尙右米專門委員ハ米國全權ハ極メテ多忙ニテ未タ日本案閱讀ノ餘暇ナキニ付日本案ハ此ノ際會議ニ提出スルコトヲ暫ク見合セ一段落着キタルトキ提出スルヲ可トセント述ヘタリ

第三目 帝國提案ノ提出

帝國全權ハ昭和七年十二月九日午前「ヘンダーソン」議長ニ對シ文書ヲ以テ「海軍軍備縮少制限ニ關スル帝國政府提案」ヲ提出セリ内容ハ前記四國側ヘ内示セルモノト同一ナリ

第四目 帝國提案全文

海軍軍備縮少制限ニ關スル帝國提案全文左ノ如シ

「帝國政府ハ、國際平和ヲ確保スヘキ軍縮事業ノ實現ニ對シテハ、最モ大ナル關心ヲ有シ、今次一般軍縮會議ニ於テモ、關係各國ト協力シテ、軍縮事業ノ成功ニ寄與セムカ爲、最善ノ努力ヲ致シ來レリ。今次會議ニ於ケル各國ノ提案、就中米國大統領「フーヴァー」氏及英國樞相「ボールドウィン」氏ノ提案ニ付テハ、其ノ發意ニ對シ、帝國政府ハ衷心敬意ヲ表シ慎重考慮ヲ加ヘタルモ其ノ内容ニ於テ帝國政府ノ受諾シ得サル點アルヲ以テ海軍軍縮問題ニ關スル其ノ見解ヲ開示セント欲ス。帝國政府ハ海軍軍備ノ質的及量的縮減ニ關スル討議ヲ行フニ當リテハ曩ニ一般委員會ニ於テ決議シタル軍縮ノ原則、軍縮ノ基準及質的軍縮ノ原則ノ三大決議ニ立脚シ、進攻的ニシテ攻撃威力大ナル兵力ノ縮減ヲ圖ルト共ニ、各國ノ地理的地位及特殊事情ヲ充分ニ考慮シ各國ノ安全威ヲ害セサル様現實ノ狀況ニ即セル、公正ニシテ合理的ナル解決ヲ期スルヲ以テ今後會議指導ノ原則タラシムヘキコトヲ要求ス。

次ニ協定方法ハ、會議ヲ成功セシムル上ニ於テ、最モ考慮ヲ要スルモノナル處、今次會議ノ如ク全世界各國ノ參加セル大會議ニ於テ、相互ニ自國ニハ關係ナキ問題又ハ微細ナル問題迄モ、一々全參加國間ニ於テ討議シ、一舉ニ全般ニ亘ル協定ヲ遂ケムトスルカ如キハ、實際上不可能事ニシテ、會議ノ成功ヲ期スル所以ニアラス、故ニ帝國政府ハ、今後ノ海軍問題ノ討議ニ於テ、前記會議指導ノ原則ノ實現ニ適合シ、會議ノ進捗ヲ容易ナラシメ、其ノ目的達成ヲ確保スル爲、有效ニシテ實際的ナル順序方法トシテ、協定ノ大綱ハ七月二十三日ノ一般委員會決議ニ於テ考慮セラレタルカ如ク日、英、

米、佛、伊間ニ豫メ商議スルコトトシ、次ニ協定ヲ一般協定及特別協定ノ二階段ニ區分シ、以テ一般的事項ヨリ局部的、細微的事項ニ移ルノ形式ヲ執リ、又海軍兵力ヲ強力ニシテ相對的性質濃厚ナル兵力、即チ主力艦、航空母艦及甲級巡洋艦ト、地理的地位及特殊事情ニ至大ノ關係ヲ有シ、防禦上並ニ警備上必要ナル兵力、即チ主トシテ乙級巡洋艦、驅逐艦及潛水艦トニ區別シ、一般協定ニ於テハ、各種艦船ノ質的縮減並ニ五大海軍國ノ主力艦、航空母艦及甲級巡洋艦ノ量的縮減ヲ行ヒ、以テ極力攻撃威力ノ削減ヲ圖リ、尙五大海軍國ニ通スル乙級巡洋艦以下ノ最大限度保有量ヲ定ムルコトトシ、特別協定ニ於テハ、利害關係密接ナル國家間毎ニ、乙級巡洋艦、驅逐艦及潛水艦ノ量的縮減ヲ行ヒ以テ各國ノ地理的地位、特殊事情等ヲ充分考慮ニ入レ、協定ノ公正ヲ期シ得ヘカラシムルコトナスハ、此際實施スヘキ最モ實際的ナル方法ナリト信ス。

帝國政府ハ、以上ノ見地ニ基キ、全世界各國間ノ協定ノ基礎タラシムルニ、最モ合理的ニシテ且實際的ナル方法トシテ左ノ提議ヲナサムトスルモノナリ。

(A) 一般協定

一般協定ハ艦船ノ質的縮減及日、英、米、佛、伊ノ五國ノ攻撃威力大ナル艦船ノ量的縮減ヲ協定シ、尙右各國ニ通スル乙級巡洋艦以下ノ最大限度保有量ヲ協定スルヲ目的トス。

(一) 各艦種ノ艦型及備砲ノ制限縮小ヲ協定ス。

(二) 日、英、米、佛、伊ノ五國ノ主力艦、航空母艦及甲級巡洋艦保有量ノ制限縮少ヲ協定ス。

(三) 日、英、米、佛、伊ノ五國ノ乙級巡洋艦、驅逐艦及潛水艦保有量ハ右各國ニ通スル最大限度ノ保有量ヲ本一般協定ニ於テ定メ右各國カ實際ニ保有スヘキ量ハ特別協定ノ分類ニ從ヒ各國ノ屬スル組ニ於テ夫々ノ關係國間ニ現實保有量ヲ標準トシ其ノ地理的地位、特殊事情等ヲ考慮シ前記最大限度ノ範圍内ニ於テ出來得ル限り縮少スルコトヲ協定ス。

(四) 日、英、米、佛、伊ノ五國以外ノ各國ノ保有量ハ各國ノ現實保有兵力量ヲ標準トシ其ノ地理的地位特殊事情等ヲ考慮シ特別協定ニ於テ制限縮少スヘキコトヲ協定ス。

(B) 特別協定

特別協定ハ全世界ノ各國ヲ概ネ太平洋組、大西洋組、歐洲組、南米組ニ區分シ、一般協定ニ於テ定メタル所ヲ基礎トシ、主トシテ各國ノ實際保有スヘキ兵力量(日、英、米、佛、伊ハ乙級巡洋艦以下ノ保有量)ニ關シ各組毎ニ制限縮少ヲ協定ス。而シテ二組以上ニ跨リ密接ナル關係ヲ有スル國ハ、其ノ關係組ノ協定ニ參加ス。抑々今次會議過去六ヶ月ノ討議ヲ通シ、全世界各國ノ一般ノ一致ヲ見タル最重要ナル點ハ攻撃力ヲ弱メ防禦力ヲ増サシメムトノ基礎原則ニ基キ採擇セラレタル質の軍縮ニ關スル原則ナリトス、故ニ帝國政府ハ、先ツ專門委員會ニ於テ壓倒の大多數國カ、進攻のニシテ、國防破壊ニ有效ナルノミナラス、非戰闘員ニ脅威ヲ與フルモノナルコトヲ認メタル航空母艦ノ全廢ヲ主張シ、且各艦種ヲ通シ艦型ノ縮小、就中威力大ナル主力艦及甲級巡洋艦ノ艦型縮小ヲ要求セムトス。

次ニ攻撃力ヲ減少シ防禦力ヲ増大セシムヘシトノ基礎の原則ハ、必然的ニ優勢海軍國ニ對シ、劣勢海軍國ニ比シ、一層大ナル犧牲ヲ提供セシムヘキモノナルコトヲ要求スルモノニシテ、眞ニ軍縮ノ實行ヲ期セムトセハ、前者ハ自ラ率先シテ、他國ニ比シ一層大ナル削減ヲ行フノ覺悟ヲ有セサルヘカラス、殊ニ兩者ヲ通シ同一率ノ縮減ヲ行ハムトスルカ如キハ、其ノ縮減ノ大ナルニツレ、劣勢海軍國ノ安全感ヲ害スルノ程度愈々大ナルヘシ、故ニ主力艦及甲級巡洋艦ノ如キ、相對的性質濃厚ナル艦種ノ縮減ニ當リテハ、特ニ此ノ點ヲ考慮シ、劣勢海軍國ノ安全感ヲ傷ケサルヲ要ス。乙級巡洋艦及驅逐艦ハ、他國ノ兵力ト相對的關係比較的薄ク、大ナル進攻の威力ヲ有セス、戰時ニ於テハ沿岸防禦及交通線保護上又平時ニ於テハ警備上等地理の狀況ニ依リ、其ノ所要量ハ主トシテ各國自主的ニ決セラルヘキモノナリ。又潛水艦ハ、海軍委員會ニ於テ大多數ノ代表カ認メタルカ如ク、防禦的ニシテ進攻の性質ヲ有セス、且他國ノ同種兵力ト相對關係ヲ有スルコト極メテ薄ク、劣勢海軍國ノ防禦上必須ノ兵力ニシテ其ノ所要量ハ專ラ各國ノ防禦の立場及地理的地位ニ依リ、自主的ニ決定セラルヘキモノナリ。即チ乙級巡洋艦以下ノ艦船ノ保有量ハ、主トシテ各國ノ地理的地位及特殊事情ヲ重視シ決定スヘキモノナルヲ以テ、各國ノ實際保有スヘキ量ハ、特別協定ニ於テ之ヲ決定シ、一般協定ニ於テハ、各國ノ容認シ得ル共通ノ最大限度ヲ以テ協定セムコトヲ要求セムトスルモノナリ。

右ノ考慮ニ基キ帝國政府ハ、左ニ一般協定ノ具體案ヲ提示セムトス。

具 體 案

(一) 將來建造ノ各艦種ノ艦型及備砲ノ最大限ヲ左ノ通制限縮小ス

主力艦	二五、〇〇〇噸	一四吋(三五、五吋)砲
甲級巡洋艦	八、〇〇〇噸	八吋(二〇、三吋)砲
乙級巡洋艦	六、〇〇〇噸	六、一吋(二五、五吋)砲
驅逐艦、嚮導驅逐艦ヲ含ム	一、五〇〇噸	五、一吋(二三吋)砲
潛水艦	一、八〇〇噸	五、一吋(二三吋)砲

航空母艦ヲ全廢シ且艦船ニ飛行機著艦用ノ臺若ハ甲板ヲ裝備スルコトヲ禁ス

(二) 日、英、米、佛、伊ノ五國ノ主力艦及甲級巡洋艦ノ保有量ヲ左ノ通縮少ス

主 力 艦	
日 本	二〇〇、〇〇〇噸 八隻
英 國	二七五、〇〇〇噸 一一隻
米 國	二七五、〇〇〇噸 一一隻
佛伊兩國ハ一五〇、〇〇〇噸(隻數任意)ヲ最大限度トシ其ノ範圍内ニ於テハ各ノ實際有スヘキ量ヲ關係國間ニ於テ協定ス	
甲級巡洋艦	
日 本	八〇、〇〇〇噸 一〇隻
英 國	九六、〇〇〇噸 一二隻

米 國

九六、〇〇〇噸

一二隻

佛兩伊國ハ五六、〇〇〇噸(七隻)ヲ最大限度トシ其ノ範圍内ニ於テハ各ノ實際有スヘキ量ヲ關係國間ニ於テ協定ス
(三) 日、英、米、佛、伊ノ五國ノ各國ニ通スル乙級巡洋艦、驅逐艦及潛水艦ノ最大限度ノ保有量ヲ左ノ通定ム

乙級巡洋艦

一五〇、〇〇〇噸

驅逐艦

一五〇、〇〇〇噸

潛水艦

七五、〇〇〇噸

之ヲ要スルニ、帝國政府ノ提案ハ、全世界輿論ノ是認セル軍縮ニ關スル原則ヲ基調トシ、軍縮事業ノ目的ヲ達成スルニ、最モ公正合理的ニシテ實際的ナル解決方法ヲ提出シ、會議ノ成功ニ寄與セムトスル誠意ヲ披瀝セルモノニシテ、他海軍國ニ於テ之ヲ受諾スルニ困難ナカルヘキヲ信スルノミナラス、之ニ依リ關係各國民ノ軍事費負擔ヲ輕減セシムルコト莫大ナルモノアルヘク、眞ニ恒久的の世界平和ノ確立ニ寄與スルノ途ナリト確信スルモノナリ。」

第五目 帝國提案ノ公表

帝國提案ハ昭和七年十二月十日午後會議書類(Conf. D. 150)トシテ各全權團ニ配布セラレ我全權部ニ於テモ同時刻ニ之ヲ公表セリ

第六目 帝國提案ニ對スル外紙論評

帝國提案ニ對シテハ四大海軍國ヲ通シ一般ニ論評ヲ加フルモノ少カリシカ英米ノ新聞論調中代表的ナル一例ヲ舉クルニ左ノ如シ

第一、「英」

一、「タイムズ」社説

(昭和七年十二月十三日) 本提案ハ細目ニ於テハ從來ノ各國提案ト一致スル點アルモ海軍々縮ニ局地的原則ノ適用ヲ

提議セルカ如キハ目新シキ點ニシテ各國ハ之ニ對シ慎重ナル考慮ヲ加フルヲ要ス然レトモ比率ノ變更ヲ提議セルコトハ華府及倫敦條約カ猶三年ノ有効期間ヲ有スルニ鑑ミ時機ヲ得タリト云フコトヲ得ス從テ長期ニ亘リ商議ノ後多大ノ困難ヲ經テ到達シタル勢力ノ均衡ヲ覆サントスル日本案カ承諾セラレヘキ見込アリトハ考フルコト能ハス即チ日本案ニ依レハ主力艦日本一隻ニ對シ英米各四隻ノ廢棄ヲ要シ八吋砲巡洋艦ニ對シテハ比率ヲ現在ノ七割四分ヨリ八割三分迄引上ケントシ又小型巡洋艦以下ニハ均勢ヲ要求シ居レリ小型巡洋艦以下ニ適用スルコト、ナリ居ル局地的原則ノ適用ハ海軍問題ニ於テハ陸軍問題ニ於ケルヨリモ困難ナリ軍艦ノ攻撃的ナリヤ防禦的ナリヤノ決定亦陸上兵器ニ於ケルヨリモ困難ナリ日本案ノ如キ大洋ヲ航行シ得ル大型潛水艦ハ明カニ侵略的國策ニ使用セラレ得ヘシ云々

二、「ヘラルド」

(同十二日) 日本案ハ米國官邊ニ於テ實現不可能ニシテ考慮ノ余地ナシトノ華府通信ヲ掲ク

三、「テレグラフ」

(同十二日) 我方提案ニ關スル左ノ要旨ノ「バイウオーター」寄稿ヲ掲ク

「日本新提案ハ多少ノ修正ヲ要スヘキモ「英」國案(Conf. D. 133)ニ極メテ接近シ來レリ今「日」「英」兩案ヲ比較スルニ

(イ) 主力艦

「日」「英」共ニ單艦最大噸二萬五千噸ヲ提議シ唯備砲口徑ニ於テ意見ヲ異ニセルモ此ノ點步寄りノ餘地アリ

(ロ) 巡洋艦

飛行機着甲板ニ關スル點ヲ除ケハ「日」ハ艦型ヲ七千噸、備砲口徑ヲ六、一時トスル「英」案ト同意見ナリ

(ハ) 航空母艦

「日」ハ全廢ヲ主張シ居ル處「英」カ之ニ對シ飽迄反對スヘキ理由ナカルヘシ

(二) 潜水艦

「日」「英」ノ主張ニ相當ノ開キアルモ「日」ハ艦型ノ大縮少ニ反對ヲ表シ居ラス從テ彼我主張ノ差異ハ極メテ小ニシテ充分妥協ノ餘地アルヘク此ノ點ニ關スル「日」「英」意見一致ノ重要性ニ關シテハ贅言ヲ要セス

第二、「米」

一、「バルティモア、サン」(昭和七年十二月十一日社説)

日本提案ノ難點ハ既存條約ノ噸數比率ノ改訂ヲ企テムトスルニアリ改訂ノ結果英米ニ比シ日本ニ相對的大ナル軍備ヲ與フルコトナルヘシ日本ハ改訂ノ理由トシテ比率ノ改訂ト共ニ噸數ニ大削減ヲ加ヘタルコト及弱小海軍國ニ比例制限ヲ要求スルコトハ海軍力ノ相對的犧牲ヨリ以上ノモノヲ求ムルモノナルコトヲ擧ケタリ右ハ慎重研究ノ要アル點ナルカ要スルニ問題ハ提案者ノ誠意如何ニ依ルモノニシテ日本ノ滿洲占領ニ於ケル遣口ハ必スシモ猜疑ノ念ヲ打消シ居ラス戰艦及甲級巡洋艦ノ型ヲ縮少セントノ案ハ米國ニトリ少カラス不愉快ナリ航空母艦廢止及軍艦上ノ航空機着艦設備ノ禁止ノ如キ米國ニトリテハ不利益ナリ日本ハ今回ノ提案ヲ防禦のナリト云フモ右案成就セハ日本ハ極東ニ於テ完全且優越ナル地位ニ立チ亞細亞大陸ヲ左右シ得ヘシ

二、「華府ポスト」(昭和七年十二月十三日社説)

日本ハ極東ノ領水ニ於テ如何ナル海軍國モ同一水準ニテハ齒ノ立タサルカ如キ海軍力ノ充實ヲ行ヒ滿洲ニ於ケル自國ノ地位ヲ堅メムト試ミツツアリ

日本海軍ハ亞細亞ノ限ラレタル水域内ニ於テ行動スルモノナルカ故ニ巨艦、長航續力ヲ有スル軍艦ヲ以テ攻撃の武器ト宣言シ自國ノ政策ニ適合スル小艦、潜水艦等ヲ以テ防禦の武器ナリトセルモ「米」ハ甲級巡洋艦ヲ以テ攻撃のナリトシ小型巡洋艦ヲ以テ防禦のナリトナス日本側議論ニハ承服セサルヘシ

「佛」ハ長年ニ互リ陸軍軍縮ノ妨害ヲナシ來レルカ今ヤ「日」「佛」兩國ハ世界ヲシテ毎年十數億弗ノ巨額ヲ空費セシ

メツツアリ

第三、「伊」

昭和七年十二月十七日「メサジエロ」社説左ノ如シ

日本案ハ「米」案(Conf. D. 126)ノ對策ト云フヨリハ寧ロ獨自ノ案ニシテ從テ「アングロサクソン」側ノ反對ヲ招キタルモ其ノ内容ハ「英」「米」ノ主張スルカ如ク然ク革命的結果ヲ齎スモノニ非ス

該案ハ現存條約ノ定ムル狀態殊ニ華府條約ノ規定スル比率ヲ更ニ公正ナル基礎ニ依リ再審議セムコトヲ期シ以テ軍縮問題ヲ一層具體的見地ヨリ處理セムトスルモノナル處佛伊ノ利益ニ深キ關係ヲ有シ協定上廣キ餘地ヲ殘スト共ニ「伊」ノ主張スル質的軍縮ノ一部ヲ認メ居レリ

地域別ニ且地理的特殊事情ヲ考慮シ以テ合意ニ達セムトスル日本案ハ協定ニ達スルノ機會ヲ與フルモノト云フヘク各國從來ノ提案ノ如ク階級ヲ設クルカ如キハ右協定ニ達スルコト不可能ナルカ故ニ日本案ハ今後ノ討議ノ爲ニスル適當ナル基礎タルヘク從テ海軍軍縮ニ貢獻スルコト疑ナシ

第四、「佛」

「プティ、パリジアン」ハ我方提案ノ大綱ヲ報道シ右ハ要スルニ佛案(Conf. D. 146)海軍條項ノ一部ヲ補足スルモノニシテ右「佛」案ト同一觀念ニ出ツルモノナリトシ又「エコ、ド、バリ」ハ日本提案ハ倫敦條約破壞ヲ目的トスルモノナルカ故ニ會議ハ纏リソウニモ見エス戰債問題ノ爲壽府ニ於ケル「米」ノ「インフリューエンス」ノ減シタルニ鑑ミ巧妙ナル戰術ト云フヘシトノ記事ヲ掲ケタリ

第五、「獨」

「獨」諸紙ハ我方提案ノ内容ヲ掲ケタルモ別ニ論評ヲ掲ケルモノナク唯右ハ日本ノ比率ヲ有利ニセムトスルモノニシテ特ニ「米」側ニ於テ反對多キ旨ヲ報道シ居ルモノアルニ止マレリ

第二節 「英」條約案提出后ニ於ケル海軍問題經緯

主要國間私的會談ノ進捗ヲ見サル爲「一般委員會」ハ海軍問題ニ觸ルルニ由ナカリシ處他方會議ハ歐洲殊ニ歐洲大陸諸國關係事項（陸軍人員問題）ニ其ノ注意ヲ集中セルカ爲本問題ハ「英」條約案一般討議及其ノ海軍器材條項討議ノ際論議セラレタリ

第一項 「英」條約案海軍條項ノ概要

「英」條約案ハ其ノ第二編第二章ニ於テ海軍器材條項ヲ設ク同章ハ「英」條約案第二十三條乃至第三十三條ノ十一ヶ條ヨリ成リ華府倫敦兩條約實施ノ繼續（第二十三條）「佛」「伊」海軍制限（第二十四條、第二十五條、第二十六條、第二十七條、第二十八條第一項）潛水艦單艦性能制限（第二十八條第二項）小海軍國軍備現狀維持（第二十九條）潛水艦使用ニ關スル倫敦條約第四編ノ規定確認（第三十條）昭和十年會議ニ於ケル各國態度ノ自由（第三十一條）次期海軍會議開催期（第三十二條）右會議ノ準備（第三十三條）並各種定義、制限外艦船、特殊艦船表及華府條約署名國以外ノ締約國ニ對スル許容噸數ニ關スル附屬書ヨリ成リ我方提案ト異ナリ「日」「英」「米」三主要海軍國現有兵力ノ縮減ニ關シ何等言及シ居ラス

第二項 「英」條約案ニ對スル我方根本態度

海軍事項ニ對スル我方根本態度ハ前出帝國案ニ依リ明カナルカ現存條約ニ依ル我方保有量ニ關スル對「英」「米」比率ヲ再確認スルカ如キ事態ヲ惹起セサルコトヲ以テ根本方針トシ後出我方聲明及修正案等ハ悉ク右方針ニ則リタリ

第三項 「英」條約案一般討議

「一般委員會」ハ昭和八年五月二十五日及二十六日「英」條約案海軍器材條項ノ一般討議及修正案提出國ノ修正理由ノ説明アリタル後其ノ第一讀會ヲ了シタルカ軍縮會議開催以來一般委員會カ直接海軍事項ヲ討議シタルハ蓋シ右ヲ以テ嚆矢トス

第一目 各國ノ態度

右條項ニ對スル各國態度ノ概要左ノ如シ

（一）「佛」ノ態度

（イ）海軍問題カ「一般委員會」ニ依リ討議セラル、ハ今回ヲ以テ初メトスルヲ以テ同問題ニ對シ自國ノ有スル一般の見解ヲ開陳スヘシ

（ロ）「英」案ノ簡粗ナルハ現存海軍ノ條約案文カ寧ロ神祕のニシテ素人ニトリテハ了解困難ナル事實ニ鑑ミタルモノナラムカ

（ハ）現存海軍條約ハ理論の基礎ニ依ラス其ノ時々ノ必要ニ應ジ實際の見地ヨリ起草セラレタルモノナレハ何等海軍々備制限ニ關スル原則ヲ包含スルコトナシ

（ニ）今回ノ「英」提案モ同シク實際の見地ヨリスル解決ヲ可ト信シ倫敦條約ノ豫見セル一般の協定（註）ヲ昭和十年以後ニ延期スルモノナリ然レトモ右ノ如キ實際の解決ハ各種會議ノ期日及條約ノ實施期間ヲ錯綜セシムル點ヨリ諸般ノ不都合ヲ惹起スルコトヲ忘ルヘカラス

（註）同條約前文第二項

（ホ）「英」案ハ前述ノ如ク一見簡粗ナルモ實ハ之ニ依リ本會議參加國ヲ華府倫敦二條約署名國、華府條約署名國及他ノ諸國ノ三群ニ分ツモノナル處右ノ如キ複雑ナル事態ハ之ヲ簡易化シ以テ第二讀會ニ至ル迄ニ海軍軍縮ニ關スル根本原則ノ確立ニ努ムルコト吾人ノ急務ナリト云フヘシ

（ヘ）海軍軍備ノ質的軍縮ニ關シ本會議「海軍委員會」ハ既ニ會議第一期ニ於テ明確ナル表決ヲナシ居ル事項存スルカ故ニ「英」案中ニ之ヲ參酌スヘク陸軍器材ニ付テノ質的制限ヲ云爲スルハ不當ナリト云フヘシ

（ト）量的制限ニ關シテハ會議ノ現狀ニ照ラシ極メテ慎重ニ取扱フ要アリ「英」案第二十四條ハ「佛」「伊」兩國ノ倫敦

條約加入ヲ勸奨シ居レル處「英」案ノ規定ハ倫敦條約第三編所載噸數ノ制限ト異ナリ建造計畫ニ關スル協定タルニ止マルト共ニ倫敦條約カ主力艦建造ニ關シ「佛」「伊」ニ明確ナル權利ヲ賦與シ居ルニ反シ「英」案ハ之ヲ抹殺シ居レリ因テ「英」條約案ノ云爲スル所ハ名ハ倫敦條約ノ加入ナルモ實ハ同條約ト「英」條約案トノ間ニ大ナル差アルヲ知ルヘシ

(チ) 補助艦ニ關スル數字ニ關シテモ「佛」ハ此ノ際何等意見ヲ述フル能ハス唯「英」條約案ノ提議スルカ如キ短期ノ建造協定ハ諸般ノ不便ヲ伴フコト及海軍事項ニ關スル合意ノ有効期間ハ之ヲ軍縮條約ノ他ノ部分ニ關スル實施期間ト相異ナラシムルハ不可ナリトノ點ヲ指摘スルニ止ムヘシ

(リ) 要之「佛」ハ海軍制限ハ關係國間ノ相對性ヲ尊重シ現實ニ立脚シ解決ヲ與ヘラルヘキモノト信ス

(二) 「伊」ノ態度

(イ) 「英」案ハ「伊」ニ對シ重要ナル犧牲ヲ課スルモノナルカ故ニ恐ラクハ第二讀會ニ於テ之カ修正案ヲ出スヘシ然レトモ建艦競争ヲ止ムルニ效アルモノナルニ於テハ假令右ニ關スル協定ノ實施期間カ短期ナリトノ理由ヲ以テ之ヲ排撃スヘキニ非スト信ス

(ロ) 質的制限ニ關シテハ「伊」ハ既ニ主力艦、潛水艦及航空母艦ノ同時廢止ヲ提議セルコトヲ會議ニ想起セムトス

(ハ) 「佛」代表ハ今後ノ海軍軍備ノ相對性及現有保有量ノ「問題」——余ハ敢テ問題ト云ヒ「原則」ナル語ヲ用ヒス——ニ言及シタルカ「伊」ハ本會議ノ作成スヘキ條約ハ其ノ海軍ニ關スルト人員ニ關スルト器材ニ關スルトニ論ナク現狀ニ基ク相對關係ニ依ラスシテ各國ノ必要ニ應ジ之ヲ定ムヘキモノナリトノ確信ヲ有スル旨ヲ一言シ置キタシ

(三) 「蘇」ノ態度

(イ) 「蘇」ハ既ニ修正案(Cont. D/C. G./3)ヲ提出シ置キタルカ右修正案ノ目的トスル所ハ

(a) 「英」案縮少實施期間ノ可及的縮少

(b) 「英」案縮少範圍ノ可及的擴大

ノ二點ニアリテ差當リ「英」案以上ノ縮減ヲ行ハムカ爲メ修正案提起ヲ差控フヘシ

(ロ) 然レトモ「英」案カ大海軍國ト小海軍國トノ間ニ存スル著大ナル勢力不均衡ヲ確認スルニ止マラス前者ニ對シ建造計畫ノ續行ヲ許シ後者ニ關シ現狀維持ヲ強フルコトニ依リ一層右不均衡ヲ大ナラシメトスルハ不可ナリ

(四) 「西」ノ態度

(イ) 海軍問題審議ニ當リテハ各國ノ必要及被侵略國ノ爲ニスル共同動作ヨリ來ル必要トノ調整ヲ忘ルヘカラス

(ロ) 攻撃的武器排除ナル原則ハ會議ニ依リ認メラレタル所ナルニ拘ラス海軍問題ノ取扱ニ關シテハ右原則カ完全ニ忘レラレタルハ遺憾ナリ

(ハ) 各國海軍々備ノ現狀ヲ見ルニ

「英」	一、二五〇、〇〇〇
「米」	一、一四二、〇〇〇
「日」	八五〇、〇〇〇
「佛」	六二八、〇〇〇
「伊」	四〇四、〇〇〇
「蘇」	一五六、〇〇〇
「獨」	一二五、〇〇〇
「西」	一二九、〇〇〇
「亞爾然丁」	一一一、〇〇〇

他ノ一切ノ國ハ十萬噸以下ニシテ五大海軍國保有量總額ハ

四、二七六、〇〇〇噸

爾餘ノ一切ノ國ノ保有量總額ハ

九四〇、〇〇〇噸

ニシテ「日本」保有量ヲ超ユルコト僅少ナリ

- (二) 右數字ニ依リテモ明カナル如ク五大海軍國カ自國ノ軍備ヲ縮少シ得ルコト明瞭ナルカ「英」案ハ大海軍國ニ付テハ倫敦條約ヲ出發點トシ小海軍國ニ關シテハ現狀維持ヲ趣旨トセルハ不公平ナリト云フヘシ

(五) 「土」ノ態度

- (イ) 「英」案ハ各締約國ニ平等の待遇ヲ與ヘサルト共ニ陸軍條項ニ關シテハ質、量兩制限ヲ豫見セルニ反シ海軍器材ニ關シ然ラサルハ不可ナリト認ム

- (ロ) 「西」代表部ノ指摘セル如ク五大海軍國以外ノ海軍兵力ハ世界平和ニ何等ノ危害ヲ及ボササルモノナルカ故ニ華府倫敦兩條約實施期間終了迄之ヲ其ノ儘トシ兩條約署名國ノ海軍兵力ニ關シ先ツ縮減ヲ加フヘシ

(六) 「瑞」典

- (イ) 倫敦及華府ニ於テ大海軍ニ適用セラレタル實際的解決方法ハ之ヲ小海軍ニ適用スルコト困難ナリ如何トナレハ右兩條約ハ特定數ノ艦種ヲ定メ其ノ間ノ融通ヲ全禁スルカ又ハ僅カニ之ヲ認メ居ル處多數ノ噸數ヲ擁スル國ハ痛痒ヲ感スルコト少キモ小海軍國ハ反之非常ナル苦痛ヲ嘗ムヘケレハナリ

- (ロ) 因テ中小海軍國ハ軍縮準備委員會ニ於テ大海軍國ノ艦種別制限方式ニ反對シタル結果同委員會ハ融通ニ關シ左ノ折衷案ヲ得タリ

- (a) 各國ノ特殊事情及融通ノ目的トナル艦艇ノ種別ヲ考慮ス
(b) 保有量十萬噸ヲ超エサル國ハ水上艦艇ノ融通ニ關シ完全ナル自由ヲ有ス

- (c) 他ノ國ニ關シテハ融通ノ範圍ハ當該國保有總噸數ト反比例ス

- (ハ) 右折衷案ハ非常ナル困難ヲ經タル後且倫敦會議後ニ達シタルモノナルカ故ニ「英」案カ之ヲ其ノ儘採擇スルニ於テハ新ナル討議ヲ避ケ得ヘカリシニ其ノコトナカリシカ爲六國共同修正案 (Conf. D/C. G./113) ノ提出ヲ見タル次第ナリ

- (ニ) 大小海軍國ノ間ニ存スル勢力ノ著シキ懸隔ハ大海軍國カ有スル所謂制限艦艇ノ存在ニ思ヒ至ラハ一層大ナルモノアリ要之「英」案ノ缺點ハ小海軍國ノ地位取扱方ヲ余リニ簡略ニセルニアリ即チ大海軍國關係問題ノ解決ニハ數年ヲ費セシニ拘ラス小海軍國關係事項ハ此ノ際之ヲ一舉ニ片付ケムトセルニアリ

(七) 「蘭」ノ態度

- (イ) 「英」案海軍條項ハ同案中ノ最モ不出來ナル條項ニシテ大海軍國ト小海軍國トヲ區別シ後者ニノミ現狀維持ヲ課シ軍縮準備委員會妥協案ヲ無視セムトスルモノニシテ不可ナリ

- (ロ) 因テ一切ノ參加國ニ對シ同一取扱ヲナスコト不可能ナルニ於テハ小海軍國ニ付テハ此ノ際軍備休日ヲ以テ満足スルノ外ナカルヘシ

(八) 「獨」ノ態度

- 「獨」ハ「英」條約案第二十八條ニ對スル修正ヲ提出セル處其ノ意ノ「(ロ)ハ艦齡三十年以上ニ達スル一老朽主力艦代換ニ關スルモノニシテ「獨」ハ昭和十年十二月三十一日以前ニハ右代換ノミニテ満足セムトスルモノナリ

(九) 「支」ノ態度

- (イ) 「支」ハ「英」案海軍條項ニ何等修正案ヲ提出セサリシモ此ノ機會ニ於テ本問題ニ關スル自國ノ一般の見解ヲ述フヘシ

- (ロ) 「支那」ハ海岸線ノ大ナルニ拘ラス又國際條約違反ノ下ニ行ハレシ武力ニ依ル侵略行爲ノ繼續ニ拘ラス殆ト海軍軍備

ト稱スルニ足ルモノヲ有セス支那主權ノ尊重及右侵略戰爭ノ終局的決定ニ至ル迄「支」ハ自國陸海及空軍ニ對シ完全ナル自由ヲ留保ス

第二目 我方態度

佐藤全權ハ昭和八年五月二十五日「一般委員會」ニ於テ左ノ如ク我方態度ヲ聲明シタリ

「英條約案第二十三條ニ對スル「日本」代表部ノ見解左ノ如シ

日本代表部ハ今次軍縮會議カ三軍ニ關聯シ且世界ノ總テニ至ル國家間ニ協定セントスルモノナルニ鑑ミ且又海軍問題カ極メテ普遍的ナルニ鑑ミ軍縮事業ノ促進上海軍問題ノ新ナル協定ヲ最モ重視スルモノニシテ昨年七月二十三日ノ一般委員會ニ於ケル決議ノ趣旨ニ依ル海軍問題處理ノ手續ニ依リ吾人ハ一段ノ努力ヲ致スヘキナリト信ス帝國政府ハ此ノ意味ニ於テ曩ニ海軍問題ニ關シ從來會議ニ於テ採擇セラレタル各種原則及各國ノ主張ヲ尊重考慮シタル最モ具體的ナル提案ヲ提出シタルモノナリ

海軍問題ハ日、英、米、佛、伊ノ五國ノ主力艦及航空母艦ニ付テハ華府條約アリ又日、英、米ノ三國ノ甲級巡洋艦以下ノ補助艦ニ付テハ倫敦條約アルモ華府條約ハ三萬五千噸ノ主力艦ヲ建造シ得ルコトナリ居リ今日各國ノ現存スル主力艦ヨリ見レハ明ニ大ナル質的軍擴トナリ又航空母艦ニ關シテハ各國共現在其ノ全條約量ヲ現有シ居ラサルヲ以テ之亦量の軍擴トナル從テ華府條約ハ今日ニ於テ之ヲ見レハ之カ實行ニ依リ反ツテ軍擴ノ結果トナリ現實ニ即セサルモノトモ見ラルヘキモノナリ又倫敦條約第三編ノ兵力量ハ日、英、米三國間ノミニ於ケル一九三六年末迄ノ暫定的協定ニシテ本協定成立ノ經緯ニ鑑ミ極メテ不安定ナルモノナリ特ニ帝國政府ハ一九三六年末以降倫敦條約協定兵力量ニ依リ拘束セラレサルモノナルコトヲ前提トシテ同意シタルモノニシテ今回英案ヲ基礎トシテ條約ヲ協定セラル、場合其ノ條約效力發生ノ時期ニ付稽レハ其ノ後恐ラタケケ年ヲモ經過セスシテ再ヒ會議ヲ開催シ新ニ協定セサルヘカラサルコト、ナルヘシ今次會議ニ於テ既存條約締約國ノ兵力量ニ關シ新ナル協定成立セサル限り右ノ如キ狀態ニアル既存條約ノ協定兵力量ヲ基

礎トシ又ハ之ヲ其ノ儘引用スルカ如キ新協定ヲ此際作ルコトハ今回ノ軍縮會議ノ性質ニ鑑ミ軍縮事業ノ目的達成ヲ容易ナラシムル所以ニ非サルヲ信ス

是吾人カ第二十三條ヲ將來ノ條約中ニ挿入セサラムコトヲ提議スル所以ナリ本條項ニ問題トナシ居ル兩條約ハ單ニ五國ノ海軍々備ニ關スルモノナルニ鑑ミ本會議ニ代表セラレ居ル其ノ他ノ諸國ヲシテ本條約ヲ新條約ニ依リ承認セシムルコトハ何等理由ナシ一般委員會ニシテ右意見ニ同意ナラハ第二十三條以下ノ佛、伊海軍ニ關スル諸條項ハ別個ノ協定トスルヲ適當ト認ム右修正提議ハ華府及倫敦條約ノ效力ニ影響ヲ及ボサシムルコトヲ目的トスルモノニ非ス

又帝國政府カ既往ニ於テモ兩條約ヲ誠實ニ履行シ來リ又將來ニ於テモ其ノ改訂ヲ見サル限り之ヲ誠實ニ履行スヘキコトニ付テハ茲ニ附言ヲ要セス

要之吾人ノ提議ハ斯ル重大問題ニ關シ何等誤解ノ起ルコトヲ避ケントスル實際上ノ考慮ニ基クモノナリ

(註) 我方ハ豫メ我方修正要旨ヲ「英」「米」側ニ内示シタルモ彼等トノ間ニ合意ニ達セザリシヲ以テ右聲明ヲナスト共ニ後記修正案ヲ提出シタリ

第三目 「英」ノ態度

我方及前出諸國聲明ニ對シ「英」ハ昭和八年五月二十五日「一般委員會」ニ於テ左ノ如ク答フル所アリタリ

(一) 既存海軍條約ハ軍縮ニ關シ最モ大ナル貢獻ヲナセルモノナルカ故ニ可能ナル範圍ニ於テ之ヲ出發點トスルハ當然ナリ
(二) 「蘇」「西」ハ大海軍國ト小海軍國トノ勢力ノ相違大ナルコトヲ指摘シタルモ右大海軍國ハ小海軍國カ何等制限ヲ受ケ居ラサルニ反シ大ナル犠牲ヲ拂ヒ軍縮事業ニ貢獻シ居ル事實ヲ看過スヘカラス

(三) 倫敦條約及華府條約ニ對スル非難ノ聲ヲ聞キタルカ華府條約ハ當時存セシ大規模ノ造艦計畫ヲ停止シ主力艦單艦噸數ノ四萬五千噸ニ達セムトスルヲ防止スルト共ニ巨額ノ噸數縮少ヲ行ヒ又倫敦條約ハ主力艦ノ建造ヲ休止シタルヲ以テ之ヲ非難スルハ當ラスト云フヘシ

(四) 「英」案カ現存條約ノ署名國タラサル國ニ求ムル所ハ軍備現狀通報ノ限度内ニ止ムルコトニシテ決シテ不當ナル注文

トハ信セス

- (五) (イ) 佐藤全權ハ現存條約中ニ規定セラレタル兵力量ヲ將來ノ軍縮條約ノ基礎タラシムルハ勿論之ニ言及スルコトスラモ軍縮ノ趣旨ニ適ハスト述ヘラレタリト了解スル處「英」案第三十三條ニ依リ明カナル如ク「英」案第二十三條ハ軍縮條約中ニ恒常の比率ヲ確立スルニモ又昭和十年海軍會議ノ結果ヲ豫斷スルニモ非ス「英」條約案ハ現存條約ヲ保持シ不完全ナル場合ニハ之ヲ補正シ又非署名國ニ對シテハ之ニ加入シ以テ次回海軍會議ニ至ル迄ノ比較的短キ期間ニ對スル狀態ヲ安定セムコトヲ求ムルコトヲ以テ其ノ趣旨トナシ居レリ

(ロ) 佐藤全權ハ條約中ニ現存條約ニ言及スルコトヲ止メ又之ヲ補正スル場合ニハ別個ノ協定ニ依ルヘシトノ具體的提案ヲナサレタルカ右ハ會議議事ノ進行ニ資スル所以ニ非スト信ス

- (六) 質的制限ハ固ヨリ「英」ノ望ム所ナルモ會議目録ノ急務ハ一般的受諾可能ナル案ノ作成ニアリト信シ右見地ヨリ現在ノ如キ「英」條約案案文ヲ作成提出セル次第ナリ殊ニ主力艦及甲級巡洋艦ニ關スル休日ノ協定セラレ居ル今日質的制限ハ左シテ重要性ヲ有スルモノトハ認メラレス何レニセヨ本點ハ主要海軍國ノミナラス一切ノ海軍國ノ參加ノ下ニ開催セラルヘキ昭和十年海軍會議ニ於テ討議ノ目的タルヘキモノナリ

- (七) 融通ニ關スル六國提案ハ倫敦條約締約國以外ノ國ニ艦型變更ノ自由ヲ與ヘ從テ二ヶ年後ニ於ケル右諸國艦隊ノ編成ヲ豫見スルヲ得サシムルモノナルカ故ニ昭和十年會議迄ノ「エキリブリアム」ハ爲之破壊セラルヘク右ノ如キハ「英」ノ受諾シ得サル所ナリ但シ「英」ハ右問題カ若干國ニトリ重要ナルニ鑑ミ之カ即時研究ヲ行ヒ前記會議前ニ解決セラルルニ努ムルノ用意アリ

第四目 「米」ノ 態度

- (一) 現存二條約ノ長所、缺點ノ如何ニ拘ラス右條約カ軍縮條約及延イテ世界平和ノ爲ニ貢獻セルハ容疑ノ余地ナシ
- (二) 佐藤代表ハ英條約案第二十三條ノ削除ヲ提議セラルルニ際シ同條ハ現存條約ニ基ク義務ニ何等關係ナシト云ハレタル

- 處右ハ誠ニ其ノ通りニテ同條ヲ削除スルモ保持スルモ右義務ニハ何等ノ變化ナキ次第ニ非スヤ「米」ハ「日本」提案カ軍縮其ノモノニ對シテヨリハ寧ロ其ノ輿論ニ及ホス影響ヲ想ヒ遺憾ノ念ヲ懷カサルヲ得ス
- (三) 海軍問題ヲ陸、空軍軍備ニ關聯セシムルハ其ノ何レノ一ヲモ解決セサルコトヲ意味ス依テ會議ハ「英」條約案海軍條項ヲ其ノ儘採擇シ以テ會議ノ成功ニ資スヘシ

第五目 「英」「米」陳述ニ對スル佐藤全權ノ反駁

佐藤全權ハ昭和八年五月二十六日前記「英」「米」所言ニ對シ左ノ如ク反駁スル所アリタリ

- (一) 余ノ二十五日聲明ハ日本代表部ノ「英」案海軍條項受諾ノ爲必要ナル修正案提出ヲ以テ其ノ主要目的トシ日本修正案カ「英」案主要骨子ヲ覆サムトスルモノニ非ス又華府、倫敦兩條約ノ效力ニ何等影響ヲ及ホスモノニモ非サルコト言ヲ俟タス

- (二) 軍縮條約中ニ華府倫敦兩條約ニ言及セサレハ輿論ニ惡影響ヲ及ホストノ論議ヲ耳ニシタルカ右議論ハ寧ロ形式的議論ト云フヘク前記二條約ノ效力ハ軍縮條約中ニ言及セラルルト否ト問ハス何等變化ナク從テ其ノ插入カ格別輿論ニ好影響ヲ與フルトハ信セラレス世人ノ要求スル所ハ形式上ノ問題ニ非スシテ眞ノ軍縮ナリ

- (三) 然ルニ「英」條約案海軍條項ハ一種ノ軍備休日案ナルモ眞ノ軍縮案ニ非サルハ遺憾ト云フヘシ

- (四) 本會議ハ其ノ性質上「英」案ニ比シ一層廣汎ナル海軍々縮案ヲ作成スヘク現ニ倫敦條約第二十三條モ此ノ點ヲ豫見シ居リ現ニ客年六月ノ「米」提案及七月ノ「英」提案モ右ニ準據シ居ルモノナリト認ム

- (五) 日本政府カ客年十二月質量兩方面ヨリ大縮減ヲ實現スヘキ具體案ヲ提出セルモ等シク同趣旨ニ基ケリ

- (六) 本會議ニシテ日本政府提案ヲ採擇セムカ主力艦、航空母艦、甲級巡洋艦ニノミ關シテモ日英米三國現有保有量ヨリ十八萬噸、條約許容量ヨリハ實ニ百十三萬噸ノ縮減ヲ見ルニ至ルヘシ

- (七) 余ハ會議カ七月二十三日「一般委員會」決議ニ依リ一層ノ努力ヲナスヘキモノト信ス如何トナレハ會議ハ海軍問題ニ

關シ未タ何等具體的合意ニ達シ居ラサレハナリ然リト雖モ具體的協定ノ缺除ハ以テ直ニ新條約中ニ現存條約ニ言及セサルヘカラストノ結論ヲ生セス

(八) 吾人ノ英案ニ期待スル所ハ本會議中ニ新ニ協定セラルヘキ海軍協定ニシテ妥結ニ達セラレスンハ之ヲ再確認スルコトナク其ノ儘トシ昭和十年ノ海軍會議ニ之ヲ委ヌルヲ可ト認ム

(九) 日本政府ハ「佛」「伊」間ノ合意ニ依リ倫敦條約第三編ヲ完成セラレムコトヲ衷心希望スル所ナルモ同時ニ兩國ノ右加入ハ同條約所定ノ手續ニ依リ行ハルヘキヲ欲スルモノナリ

第四項 「英」條約案ニ對スル各國態度ノ概觀

前記討議ニ表ハレタル所ニ依リ各國ヲ左ノ三群ニ分ツヲ得ヘシ

第一群：華府倫敦兩條約署名國タル主要海軍國

「日」「英」「米」ノ三國是ナリ我方カ七月二十三日「一般委員會」決議其ノ他ニ依リ本會議中ニ海軍々縮ノ實ヲ舉ケムトスルニ對シ「英」「米」ハ昭和十年海軍會議迄現狀維持ヲ欲ス從テ本群所屬國中修正案ヲ提出セルハ本目第一所載ノ如ク我方ノミナリ

第二群：華府條約ノミニ拘束セラル、主要海軍國

「佛」「伊」ハ第二群ニ屬ス「伊」カ對「佛」均勢ヲ固執スルニ對シ「佛」頑強ニ之ヲ拒ミ「英」「米」トハ異ナリタル意味合ニ於テ寧ロ現狀ヲ可トシ居レリ從テ其ノ提出セル修正案ハ寧ロ抽象的理論的ナルモノナルヲ免レサリ

キ

第三群：爾餘ノ海軍國

「蘇」「西」「獨」「亞爾然丁」等他ノ一切ノ海軍國ヲ含ミ「英」案カ之等ノ國ニ關シ現狀維持ヲ求ムルヲ以テ不可ナリトシ其ノ一部ハ所謂六國修正案ニ依リ右不滿ノ意ヲ表明シ「エストニア」「リチアニア」「波斯」「希臘」等之

ヲ支持シタリ

第五項 各國修正案

各國修正案ヲ前記三群別ニ分チ之ヲ記載スレハ左ノ如シ

第一目 第一群所屬修正案

我方修正案 (Conf. D/C. G./114) 左ノ如シ

「日本代表部ハ海軍事項ニ關スル協定ノ成立及本會議カ七月二十三日「一般委員會」決議所定ノ手續ニ依リ一層ノ努力ヲ拂ハムコトヲ特ニ重視スルモノナリ

日本代表部ハ不安定且既ニ實施期間ノ短小トナレル現存條約ヲ基礎トシ又ハ之ニ言及セサルヲ可トスルモノナルカ故ニ右條約ニ依リ拘束セラル、諸國間ニ新ナル協定成立セサルニ於テハ同條約カ該諸國ニ對シ許容セル兵力量ヲ新條約中ニ掲ケサルヲ最モ實際的且公正ナリトスルモノナリ

第二十三條……………削除

第二十四條……………削除シ直接關係國間ノ協定ニ委ヌ

第二十五條……………同

第二十六條……………同

第二十七條……………同

第二十八條第一項……………同

尙我方ハ昭和八年五月二十七日「一般委員會」カ海軍器材討議ヲ終了スルニ際シ第二讀會迄引續キ右修正案ヲ保持スル旨宣明シタリ

第二目 第二群所屬國見解、聲明及修正案（「佛」及「伊」）

第二、「佛」代表部見解 (Conf. D./C. G./134) 左ノ如シ

「佛」代表部ハ新條約海軍條項ハ左ノ諸原則ヲ參酌スヘキモノナルコトヲ信ス

(一) 新條約ハ一般のタルヘシ

(二) 新條約ハ軍備ノ相關々係ヲ尊重スヘシ

特ニ質の軍縮ニ關シテハ右軍縮ノ原則ヲ採擇セル「一般委員會」決議ノ結果ヲ準備委員會軍縮條約案第十四條、第十五條及第十六條ニ及ハシメ以テ單艦最大噸數及備砲最大口徑ニ付一層嚴重ナル制限ヲ加フヘシ

(三) 新條約ハ軍縮會議開催當初ニ存セシ現實狀態及右狀態ヨリ來ル各國海軍兵力ノ相對性ヲ參酌スヘシ

然レトモ發達ノ途上ニアル小海軍國ハ國際聯盟規約第八條ニ定ムル原則ニ依リ公正ナル割合ニ依リ發達スルコトヲ認メラレサルヘカラス

他方準備委員會軍縮條約案第五十三條所定ノ如ク新條約力定ムルコトアルヘキ一層嚴重ナル制限ヲ留保シ現存海軍條約ハ昭和十年十二月三十一日迄引續キ其ノ效力ヲ存續スヘキモノトス

(四) 新條約ハ其ノ制限又ハ縮少スル軍備ノ種類ノ如何ヲ問ハス同一實施期間ヲ有スヘク且右期間ハ建造計畫ノ作成及實施ニ足ル丈ケノ期間ヲ有スヘシ

前記ノ所ヲ留保シ新條約案文ハ「英」提議ニ基キ昭和七年二月二十五日全會一致ヲ以テ會議々事ノ基礎トシテ採擇セラレタル準備委員會條約案海軍條項ノ規定スル方式ニ類似セルモノナルコトヲ必要トスト認ム右ニ關シ「佛」代表部ハ該方式カ倫敦會議ノ決定ヨリ來ル當然ノ結果タルコトヲ茲ニ再録セムトス」

第二、「伊」聲明 (Conf. D./C. G./75) 及修正案 (Conf. D./C. G./141)

(一) 「伊」ハ初メ昭和八年四月二十八日附ヲ以テ左ノ聲明ヲナシ

「英」案カ何等修正ナク其ノ儘採擇セラレサル場合ニ於テハ海軍條項中特ニ左ノ點ヲ重視ス

(一) 第二十七條

乙、口徑六・一时 (一五五耗) ヲ超エサル砲ヲ搭載スル巡洋艦及驅逐艦

丙、潛水艦

次ヲ右ニ關シ昭和八年六月十二日附ヲ以テ左ノ修正案ヲ提出シタリ

「第二十七條乙、口徑六・一时ヲ超エサル砲ヲ搭載スル巡洋艦及驅逐艦

最初ノ二項ヲ左ノ如ク修正ス

「昭和八年一月一日及昭和十一年十二月一日ノ期間内ニ於テ「佛」及「伊」ニ依リ起工又ハ取得セラルヘキ噸數ハ三萬四千二百九十八基準噸 (三萬四千八百四十七米噸) ニ制限セラルヘシ」

第三項ノ終ノ次ニ左ノ字句ヲ加フ

「然レトモ該噸數ノ一部分ハ今後決定セラルヘキ割合ニ依リ之ヲ制限外艦艇ニ變更スルヲ得」

第二十七條丙、潛水艦

第一項ヲ左ノ如ク修正ス

「昭和十一年十二月三十一日迄「佛」及「伊」ハ夫々自國建造計畫ヲ右期日ニ於テ既成噸數カ五萬二千七百基準噸ヲ超エサル様按配スヘシ」

(附記) 右修正案受諾ヲ條件トシ「伊」代表部ハ海軍條項ニ關シ他ノ修正案ヲ提出スルノ意ナシ

第三目 第三群所屬國見解及修正案

第一、「蘇」見解 (Conf. D./C. G./83)

「蘇」代表部ハ現存兵力ノ縮少ヲ伴ハスシテ小海軍國ノ利益ヲ無視シ大海軍國ノ利益ノミヲ讓スカ如キ軍縮方式ヲ受諾シ得サルモノナルカ故ニ本章ニ對シ修正案ヲ提出セス

「蘇」代表部ハ他ノ國ニ對シ該當噸數ヲ考慮スルコトナク主要海軍國ニノミ現有噸數中ニ既成噸數ノ外、建造中、協賛濟否單ニ計畫中ノ噸數迄ヲモ包含スル自由ヲ與ヘラルコトニ對シ反對ス「蘇」代表部ハ主要海軍國ノミカ華府及倫敦條約ノ定ムル除外例ヲ自國海軍ノ性質上當然之ヲ必要トスル小海軍國ニ對シ拒否シ居ルコトニ對シテモ反對ス尙小海軍國ニ對シ融通ノ權利ヲ認メサルコトニ反對ス」

第二、「獨」修正案 (Conf. D./C. G./91)

「本軍縮條約ハ他國海軍兵力ニ關シ何等ノ制限ヲ提言シ居ラス然シナカラ主要海軍國カ昭和十年會議ニ於テ大縮減ヲ行フヘキコトヲ期待シ「獨」ハ右會議迄現在迄境界トシテ自國ニ與ヘラレタル數ノ艦艇ヲ維持スルノ意アリ「ヴェルサイユ」條約ノ之等艦艇ニ關シ定メタル決定の標準ハ噸數ニ非スシテ各艦種ニ屬スル艦艇ノ數ナリ從テ噸數ハ他國ニ關スル場合ト異ナリ「獨」海軍兵力ノ標準トハナラス修正案(一)ノ(イ)及修正案(二)ハ右「獨」ノ特殊地位ヲ考慮セルモノナリ「ヴェルサイユ」條約ニ依レハ「獨」ハ數年前ヨリ數隻ノ主力艦代艦起工ノ權利ヲ有セシモ右權利ノ全般の行使ヲナサザリキ「英」案所定ノ如キ短期間協定ノ成立ヲ容易ナラシムル爲「獨」ハ更ニ右權利ノ一部ヲ拋棄シ昭和十年ニ於ケル海軍問題ノ決定の解決ニ至ル迄一隻以上ノ主力艦代艦ヲ起工セサルノ用意ヲ有ス(修正案一(ロ) 參照)

「獨」ハ未タ「獨」ヲ含ミ數國代表部カ會議第一期ニ於テ提案セル潛水艦廢止カ本會議中ニ實現セラルヘキコトヲ斷念シ居ラス然レトモ「一般委員會」カ國防上此ノ際直ニ潛水艦ノ廢止方不可能ヲ決定スルニ於テハ「獨」ハ第二讀會中本點ニ付再說スルノ權利ヲ留保ス

(一) 第二十八條ノ次ニ新ニ左ノ一條ヲ加フ

「昭和十一年十二月三十一日ニ至ル迄ノ期間中「獨」ハ

- (イ) 水上艦艇ニ關シ現在迄制限々度トシテ定メラレタル所ヲ超エサルコト
- (ロ) 艦齡超過主力代艦起工ヲ一隻ニ限ルコト

ヲ約ス」

(二) 第四附屬書首題ヲ「華府條約締約國及獨逸以外ノ」ト修正ス」

第三、六國見解(西、芬、波蘭、羅、典、「ユーゴースラヴィア」)

「華府及倫敦條約非署名國ハ海軍々備制限ニ關スル見解ハ之ヲ軍縮準備委員會ニ於テ初メテ開陳スルヲ得タル次第二テ本次會議ニ於テ今日迄其ノ述ヘタル所ハ極メテ一般の性質ヲ有スルモノニ限レリ然レトモ右諸國カ前記條約署名國ト協力シ軍縮準備委員會ニ依リ昭和五年十二月採擇セラレタル軍縮條約案海軍條項ヲ起草セルハ周知ノ所ナリ因テ本條約案ノ規格内ニ於テ軍縮準備委員會條約案規定ヲ適當ナル形式ニ依リ挿入セシムルハ公正ナリト認メラル

右規定ハ現存海軍條約署名國トノ合意ニ依リ決定セラレタルモノニシテ相互讓歩ニ依リ達シタル妥協ノ結果タルコトヲ特記ス

本修正案ハ前記見解ニ基ケルモノニシテ換言セハ本會議特ニ客年七月二十三日決議ニ依リ實現セラレタル進歩ヲ考慮シテ作成セラレタルモノナリ

(一) 第二十八條

主力艦ニ關スル部分ノ後ニ左ヲ附加ス

「右ノ外附屬書第四ニ掲クル代換規則ニ基キ乙艦級主力艦ヲ起工又ハ取得スルヲ得」

(二) 第二十九條

(イ) ヲ削除

(ロ) ヲ左ノ如ク修正ス

「本條約實施期間中附屬書……ニ掲クル特殊艦船ヲ除キ各締約國艦艇總噸數ハ當該締約國ニ付附屬書第四ノ表最終欄ニ定メララル噸數ヲ超ユルヲ得ス」

第六項 華府條約署名國以外ノ國ノ海軍兵力量

「英」條約案第二編第二款第二章ハ其ノ附屬書第四ニ華府條約署名國以外ノ國ノ海軍兵力量ヲ掲クルモノトシ右兵力量ハ當該國ニ付昭和七年度國際聯盟軍事年鑑中ニ記載セラルル數字ヲ用フトノ大綱ヲ記載スルノミニ止マリシカ（但シ制限外艦艇及特殊艦船ヲ除ク）其ノ後「英」代表部ハ昭和八年五月二十六日附（Conf. D./C. G./117）ヲ以テ國際聯盟事務總長ニ對シ「英」條約案第二十九條乙ニ掲クル噸數即チ乙級巡洋艦、驅逐艦及潛水艦並特殊艦船（條約案第二編第二款第二章附屬書第三）噸數ヲ右年度軍事年鑑ニ基キ算定公表セムコトヲ求メタルニ依リ聯盟事務局ハ右 C. G. 117ニ華府條約署名國以外ノ國保有噸數表ヲ作成配布シタリ

第四編 空 軍 問 題